

宮坂建設工業が防災推進会議

460人が安全施工誓う

改善点は積極的に提案を



宮坂社長はゼ口災害の達成に協力を求めた

故・無災害の達成に向けて決意

【帯広発】宮坂建設工業(株) (帯広、宮坂寿文社長) は22日、帯広市内の北海道ホテルで2019年度防災推進会議を開催した。同社および協力会社の役員約460人が参加し、無事

を新たにした。宮坂社長は、本年度の社長方針「徹底的に健全化する」品質「一流、社員「一流、会社「一流」にふれながら「当たり前」前のごとききちんと行い、ことしは無事故・無災

害を達成してほしい」と要請。加えて「各現場において、良くないと思つたことは積極的に意見・提案してほしい」と呼びかけた。

来賓指導講話では、帯広労基署の伊原秀明署長、帯広警察署の横田剛士交通官、帯広消防署の佐々木論救急課長が登壇。帯広労基署の伊原署長は「労働災害防止に向けて」と題し、事故防止のポイントを解説した。

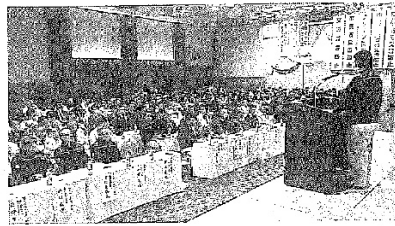
このほか、高倉法夫常務が「安全衛生計画・実施事項」、藏田忠廣副社長が「防災安全担当役員からのお願い」を説明。最後に参加者を

代表して、建築部の花井英氏が安全決意を行い、労働災害・交通災害の防止に向けて気持ちを一つにした。

防災推進会議で安全管理徹底誓う

宮坂建設工業

【帯広】宮坂建設工業(本社・帯広)は22日、帯広市内の北海道ホテルで2019年度防災推進



会議を開いた。協力会社を含む460人が防災、交通事故、火災、救急の傾向を学び、安全管理徹底を誓った。写真。

宮坂寿文社長は「防げた事故は重大災害に結び付きやすい。おかしい、危ないと思つたら徹底的に健全化を」と訴えた。

講話で伊原秀明帯広労基署長は、過労死、パワハラ・セクハラを受けての自殺が増えている点に言及。「純然な作業の労働は減っているが、新し

い問題で全体数は下がっていない」と指摘した。

十勝管内は人と車の事故が多く、帯広警察署の横田剛士交通官は思いやりのある運転を要請。帯広消防署の佐々木論救急課長・消防司令長は、春先に多い野火、救急車の適正利用へ注意を促した。

◆宮坂建設工業(帯広、宮坂寿文社長)の防災推進会議

22日、帯広市内の北海道



ホテルで開かれた。同社や協力会社の社員ら約460人が出席。宮坂社長は「昨年一歩間違えると重大災害になる軽微な事故があった。当たり前のことを当たり前にできるよう検証し、無事故無災害を達成したい」と述べた。写真、協力会社への安全表彰や指導講話も行われた。

宮坂建設工業札幌支社が防災推進会議

品質一流、会社一流に

400人が無事故無災害を誓う

宮坂建設工業(帯広)の札幌支社(金田幸一社長)は25日、札幌サンプラザで2019年度防災推進会議を開き、1年間の無事故・無災害を誓った。本支社役員と協力会社から合わせて400人が参加。最初に、物故者に全員

で黙とうをささげた。宮坂寿文社長はあいさつで、「一歩間違えると重大災害になりかねない事案も発生している」と指摘。「基本動作の確認、プロ意識が足りないのでは。我々自身も基本動作にのっとり、現場の安全行動に努めていきたい」と述べた。



基本動作の確認を訴える宮坂社長

そして「徹底的に健全化する」との本年度社長方針に關し「品質一流、社員一流、会社一流を目指して取り組みたい。(協力会社の)皆様も一流を目指してほしい」と期待した。働き方改革など建設業の環境変化について、宮坂社

長は「単独競争から品質競争に移ってくる。地に足を着けて現場改革、企業改革に取り組み」として、協力会社の理解、協力を求めた。優秀協力会社・職長の安全表彰に続き、札幌中央労基署・藤本敏宏安全衛生課長、札幌方面北警察署・西村清三交通官、札幌市消防局予防課・瀧山忍防火安全係長が講話。同社の巻田卓雄防災安全部長が安全衛生計画・実施事項を説明し、藏田忠廣副社長(防災安全・技術品質管理担当)も作業の留意事項を挙げた。会議に先立ち、北海道神宮で安全祈願祭を執り行い、無事故無災害を誓った。